中学校　国語科学習指導案

指導者　髙島　幸

日　時　平成 28 年 10 月 15 日（土）　第２限（10:35～11:25）

場　所　第１研修室

学年・組　中学校３年Ａ組　39 人（　9 人，女子 20 人）

単　元　読みの幅を広げる ―「少年　海」(芥川龍之介)

目　標

1．「代赭色」の海について　られている叙述に基づいて文章を解釈し，語り手を意識する。

2．学習者相互に読みを交　ることによって，読みの幅を広げる。

3．書き手のものの見方や　方を読み解くことで，自分のものの見方や考え方を広げる。

授業について

研究　の主題「次期学習指導要領に　たアクティブ・ラーニングの展開」を受けて，国語科では「学　質を高めるために」を教科主　して掲げている。

生徒　後社会に出た際に求められる　しては，科学的な視点で物事の道理を究明し，そこでの知見を　会で活用する力であろう。国　が進み，社会が急激に変化を遂げる中で，人間の複雑さの絡ま　問題を解決していくために　以上に創造性や協調性が求められる。そのようなグローバル社　生き抜くことができる人材を　するためには，議論や対話による相互啓発を通して学びを深め　ともに，創造性や協調性を育　ることが必要であると考える。作品を構成する諸要因の発見と　意味づけをする中で捉えた角　，学習者相互に意識化し，交流をはかることはそのような　につながるのではないか。授　中で，ファシリテーターとしてのような学習過程を設定し，　側面から眺める視座に気付か　学びの質を高めていくことをめざしたい。

芥川　介の『少年』は，「保吉もの　言われる作品群に分類される。一九二四年（大正一三）年に『　公論』に『少年』として発表　たものと，翌月，同じく『中央公論』に『少年続編』として発　れたものを，一つにして六章　成されており，保吉が少年時代の体験を回想的に語るといった　を持っている。教科書に掲載　ているものは，『少年』のうち，「四　海」を抄出したものであ　「少年 ― 海」は，物語世界から　そ三〇年後の時点で回想的に語られているが，少年「保吉」と　年後の「保吉」，そして「語り　との関係をどのように捉えるかは学習者によって異なるだろう。　みを他者と交流することで，　者に多様な読みを共有させたいと考える。ファシリテートする　により，生徒が到達した読み　こまで多様化し，深化させることができるのか，そのことについて　考えてみたい。

評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	話す・聞く能力	知識・理解
・語りに即して作品の叙述を根拠としながら読もうとしている。	・小説における語り手を意識することによって、内容の理解に役立てている。	・異なる読みがあることを想定し、聞き手に自分の考えを理解してもらえるように話している。 ・話し手の考えを聞き取り、自分の考えと比較している。	・語句の意味や用法を理解している。 ・語句の意味や用法を理解しようとしている。

学習計画（全4時間）

次	学習活動	評価規準と方法
1	全文を通読し、自己の読みを形成する。語句の意味・用法につ いては学習シートで確認する。この小説はどんな小説か、考え た点・疑問点をカードに書く。（1時間）	関・読・知 行動観察・カード
2	グループごとに交流し、多様な読みを形成する。各自の 読みを相互評価し、疑問点の解決をはかる。読みの到達点と解 決できなかった疑問点をグループごとに発表する。（2時間）	関・読・話・聞 行動観察・発表資料・発表
3	ファシリテートにより、他者との読みの多様化と深化をはかる。 （1時間）【本時】	関・読・話・聞 行動観察・発表

本時の学習目標

1．語り方を意識しながら読んだ交流を通じて、読みの多様化と深化をはかる。
2．この作品で語られているものは何かを考える。

本時の学習指導過程

学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法
1　前時の振り返りをする。	・交流して到達した読みと、未解決の疑問点とを確認させる。	未解決の疑問点を自己の課題として考えようとしているか。 行動観察
2　小説をどのように読んだかを再考する。 Ⅰ　海を考える。 Ⅱ　語りを考える。	・海の象徴するものについて考えさせる。 ・語りと語られているものについて考えさせる。	描写に即して考えようとしているか。 発表・行動観察 語りについて考えようとしているか。 読みの多様性について理解しているか。 行動観察
3　本時のまとめ		